

公明党視察報告書

研修先	東京都新宿区戸塚町 早稲田大学
日 時	平成 30 年 7 月 11 日(水) 午後 1 時 00 分～午後 5 時 30 分
場 所	早稲田大学大隈記念大講堂
テーマ	全国地方議会サミット 2018 議会の力で日本創生
対応者 (講師)	江藤俊明 (山梨学院大学)
概 要	
<p>◆目的◆</p> <p>・「地方創生」時代に求められる議会力とは、何か。投票率低下・無投票当選者率増加、不信の増加、議会否定論の蔓延等、いわゆる地方政治の負の連鎖を脱却し正の連鎖を創り出すために、議会はどんな力をつけたらよいのか、個である議員力をつけ、チーム議会へと向上・連動している先進地例を学ぶことは、有意義な研修であると捉える。</p> <p>◆論点 1 ◆</p> <p>「住民自治の根幹」としての議会である。</p> <p>■議会改革 従来とは異なる議会(住民と歩む、議員間討議重視、首長等と政策競争)、全市と異なる、議会基本条例に規定</p> <p>■思いつきでない改革 住民自治の原理(二元制→首長等と政策競争、議会意思形成のための討議、直接民主制等→行政にも議会にも住民参加)、「住民自治の根幹」としての議会(多様な討議空間→地域経営にとって重要な権限は議会)※多様なニーズを知るのが議員である。</p> <p>■議会基本条例の展開</p> <p>①議会運営の根幹規範性</p> <p>②新しい議会運営の 3 つの要素→住民参加型議会、議員会討議を重視する議会、執行機関と政策競争をする議会、3 つの要素を実現する議会(通年議会など)</p> <p>■地方政治の台頭と二元的代表制＝機関競争主義の覚醒 地方政治の時代、首長主導民主主義とは異なる二元的代表制</p> <p>◆論点 2 ◆</p> <p>みなさんの議会はどこにいて、どこを目指す? ! ：議会からの政策サイクルの理論と実践</p> <p>■形式とともに内容(実質)を：住民福祉の向上と連動 議会改革と住民との関係</p> <p>■議会からの政策サイクルの発見 三重県議会、会津若松市議会、飯田市議会</p> <p>■議会からの政策サイクルの展開 ①多様な展開 ②展開の道具</p> <p>■政策サイクルの特徴 住民目線、合議 → 総合性 → 総合計画とニッチ政策</p> <p>■PDCA サイクルの創造：首長等との政策競争の創造 討議と決定が欠落している。</p>	

◆論点3◆

課題の確認(課題の共有化)

- 地域経営の軸とルール、それに議会はどうかかわるか
- 議会からの政策サイクルの評価(生産性本部との共同研究)
- 新たな条件整備

◆まとめ◆

- 人格を持った議会
情熱・判断力・結果責任
- 連携(議会間・議員間・事務局間・住民間・研究者間)

《議員のなり手不足とその解消》

名望家としての議員・活動量の少なさ・議員年金
適正な議員報酬等の整備・地域の活性化・女性の登用など。

《飯田市議会における一年間の流れ》

- 議会報告会に向けての取り組み
 - 所管事務調査 ⇒ 意見交換会におけるテーマ設定
開催要領の決定・テーマの公表
 - 調査・研究結果集約したものを報告 ⇒ 10月
- 議会報告会後の取り組み
 - 市民意見の集約 ⇒ 問題発見
課題抽出 課題設定
「調査・研究」「行政評価」の対象を決定
 - 報告・公表
 - 所管事務調査 ⇒ 反省・総括
新年度方針案の決定
まちづくり委員会へ方針の提示・決定

所 感

- 「地方創生」時代に求められる議会力について、本議会有効な点を下記に記載。
- ◎事例は議会が中心となって、自治体の課題を共有化している。
議会報告会で、問題を再発見したあと、さらに「調査・研究」を実施している。
また、その課題について「所管事務調査」を実施、方針をだして市民へ報告する取り組みに、チーム議会としての、責任の「見える化」が明確である。
- 市民意見の集約から課題抽出するなど、「議会報告会」実行委員会等の設置も一案である。
- 大野城市議会は、「議会報告会」の参加人数を増やすことに意識してきた。根本的に住民参加型の「新しい議会運営」実施を検討していくように提案していきたい。

—作成者 大塚 みどり —